

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

蒲刈中学校区 校番31 学校名 呉市立蒲刈小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	B	目標、指標の設定は適切であると思います。
目標達成のための方策の適切さ	A	児童生徒の実態に応じて、目標達成のための多様な方策を考えています。
自己評価の結果の分析の適切さ	B	自己評価の結果の分析は、様々な観点から適切に分析をされていると思います。
今後の改善策(案)の適切さ	B	中間評価における課題に対して、よく検討され、適切な改善策が提案されています。
その他	○ 先生方の長時間勤務の軽減について、効果が表れ業務改善に取り組んでいる様子がうかがえます。 ○ 不登校気味の児童生徒への対応について、スクールカウンセラーや児童生徒の「居場所づくり」等、きめ細かく取り組んでいる様子がよくわかりました。	

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	〔知識・技能の確実な定着〕 ○Qubenaの効果的な活用等について研修をもち、2学期の活用を図る。 ○火曜・木曜に放課後学習を位置付ける。 ○体育科の授業において、意欲的に走運動に取り組むよう授業改善を図る。 〔自己表現できる力の育成〕 ○学級でのスピーチや全校朝会での発表等、場の設定を継続する。 ○相手意識をもって、自分の思いをさらに発表できるように取り組む。 〔思考力・判断力・表現力の育成〕 ○課題発見・解決学習の継続による授業改善に取り組む。 〔自己肯定感の育成〕○しっかりとめあてをもたせて学習発表会に取り組みせ、やり切らせる。児童同士のメッセージ交換や保護者からのメッセージを掲示する等、多様な肯定的評価・相互評価に取り組んでいく。 〔自己の生き方を考える力の育成〕 ○2学期は、地震・津波の避難訓練を行い、その理解を深め災害時の行動の仕方をさらに身に付ける。 〔児童と向き合う時間の確保〕 ○業務内容の優先順位を明確にしつつ、時間を「かけること」と「かけないこと」の判断を意識する。ミニ研修などを通して、ICT活用能力の向上を図る。
--------------------	--

